

長組の合奏 ― 子ども会 (二月二十四日)



くさばな しんぶん

2018年2月号

197-0802
東京都あきる野市草花3060
電話 042-558-3018
ファックス 042-559-3071



代かつては、大行寺の境内は、梅園というほどではありませんが、梅の木が多く、江戸時に芳香を漂わせ、ああ春が近いな、と思わせられたものでした。それが、あのウイイルスのために、全木伐採の命令を受け、泣く泣くすべての梅の木のみならず、杏の木も伐らざるをえませんでした。今年も、よそのお宅の梅の木が、白いつぼみを枝に付けているのを、梅を植樹できることになり、とても寂しい気分がこもっています。(二月二十八日記)

《梅の香り》
き虫鬼(一) お腹のなかに悪さをしている鬼を絵にしてみました。本当に怖いのは自分というお話をした(大人のお腹に巣くうのは何鬼?)。 (写真説明 右上「ゲームし過ぎ鬼」右下「おもちゃ大好き鬼」左上「寝坊鬼」左下「泣き虫鬼」)

《子ども会》
二月二十四日の子ども会にたくさんの方がご来園くださいましたことに対し、厚く御礼申し上げます。駐車場のことその他について、お願いしただけが多々ありましたが、おかげさまで無事に終了できました。また、当日は図らずも司会進行の役を担うことになり、みなさまのご期待に応えられない満足に行かない進行となったことをお詫びいたします。特に、最後の挨拶で保護者会のみなさまにお礼を言うべきところを、事前には手元に忘れないようメモしておいたのですが、それすらも忘れてしまいました。お詫び申し上げます。年齢差もあるところで、「子ども会」という名称は、当日もお話ししました。お詫び申し上げます。年齢差もあれば学級の編成で別々となりうる幼児が、その活動の一環であり成果でもあるいろいろな活動、歌や絵や遊戯や劇などを互いに感じて楽しむ、それぞれの成長の刺激となるような機会として捉えるところに狙いがあります。むしろ「子ども会」の主体は、演ずる側も見守る側も子どもたちである、という考えもありません。ふだんの誕生会も同じスタイルです。そのために、当園の舞台もそうしる考えによってもなく、まったくオーブンの舞臺です。そうしたように、綴帳(どんちよう)や幕があるわけでもなく、まったくオーブンの舞臺です。そうしたフロア。その懐深い空間のフロアを使っている遊戯も劇も展開されます。こうしたスタイルは全国でもあまり無いのではないうか。また、私を通じた自身の成長ぶりをご披露したと思えます。あらためて拍手を送ります。また、私たちその成長の場に一緒に居られることの喜びをありがとうございます。

《節分》
質問…本当の鬼はどこにいる？
答…自分のお腹の中！
質問…鬼は何でやっつける？
答…豆！
質問…何の豆？
答…大豆！
質問…大豆って？
答…お豆腐作る大豆！
質問…お豆腐を要約します？
答…お豆腐を要約します？
質問…お豆腐を要約します？
答…お豆腐を要約します？



理事長・園長 山城 清邦

日々の保育から

主任教諭 影山 幸江

先日の子ども会では保護者の方々をはじめ、たくさんの方にお出でいただきありがとうございました。くさばな幼稚園では、この1年間の保育の中で行って来た活動や、経験をお伝えする場として毎年この時期、桃の節句、おひな祭りに近い土曜日に子ども会を開催しております。これまでの積み重ねを発表会という形にして、この日に向けてどのクラスも少しずつ練習を重ねて来ました。どのお子さまも、お家の方が見に来てくれる事を楽しみにしながら頑張っていました。当日は、練習以上の力を発揮できたお子さまたちです。当日の様子はご覧になったとおりですので、当日までの様子をお伝えし、子ども会を通してのお子さまたちの変化や成長をお届けします。

《かわぐみ》

子ども会ってなに？ はじめはそんな様子でした。どちらのクラスもこれまでの活動から題材を選択したことで日々の練習も喜んで取り組んでいました。特に劇遊びは、お子さまたちが大好きな動物の表現を取り入れた題材だったこともあり、担任が「練習するよー」と声を掛けると、「やったー!!」の声が聞こえて来ました。練習のはじめのころは自分の出番が待てずに、隣の友達とお喋りをしていたり、ちょっかいを出し合っていたりしていましたが、少しずつ落ち着いて待てるようになりました。また、そうした経験をしながら、他のクラスの出し物にも関心が持てるようになり、他のクラスを静かに見学するというところにも繋がっていききました。

《もりぐみ》

もりぐみはリズム劇をしました。当園で代々受け継がれているカリキュラムの一つです。物語を音楽に合わせた動作で表現するというのは難しいところもありましたが、お話の内容をよく理解することで、担任とお子さまたちで動きを考えながら作り上げることが出来ていました。はじめは自分の出番のタイミングが分からなかったり、リズムと動きが合わなかったりしていましたが、曲を良く聞くことを意識して取り組むうちに、体が動くようになっていました。発表は5番までの長編でしたが、朝、帰りや活動の合間などに担任がピアノを弾き始めると自然とピアノの前に並んで歌い始めていたお子さまたちでした。歌、合奏は、毎日少しずつ練習を積み重ねてきました。動きやリズムだけでなく立ち位置や、全体の流れなど覚えることがたくさんありましたが、頑張っていました。

《やまぐみ》

これまでの園生活の集大成ということで、お子さまたちの「子ども会」に対する意欲が強く伝わって来ていました。どちらのクラスからも「劇の練習したい」という言葉が聞こえ、お面が完成すると、遊びの時間もそれを被り、役を楽しむほどでした。毎日の練習も楽しんで進められていて、いつの間にか全部の台詞を覚えてしまっていたお子さまたちでした。発表はそれぞれのクラスで内容は違いましたが、お子さまと担任でどんなことを伝えたいのかを考え、発表の言葉にしました。自分で考えた言葉とはいえず、覚えて大きな声で発表することはやはり難しいようでしたが、言葉覚えてくると、声もどんどん大きくなり、自信が持てるようになっていました。歌、合奏は、これまでやってきたものを全て出すべく、毎日練習を積み重ねてきました。楽器は、お子さまに希望を聞いた上で、担任が熟考し決定いたしました。希望どおりに行けなかったお子さまもたくさんいたと思いますが、それでも与えられた役目を最後まで真剣にやり通すことで大きな成長に繋がったことと思います。

以上のように、各学年ともに子ども会を通して様々な変化や成長が見られました。また、今年度も無事に子ども会を終えることができたのは、保護者のみなさまがお子さまを見守り、支えて下さったお陰だと思っております。これまでのご協力に感謝いたします。ありがとうございました。早いもので今年度も残りあとわずかですが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

2月

ほごしかいだより

西日本の日本海側と北陸に襲来した大寒波はあきる野市にも大雪を降らせました。まだまだ寒い日々が続いていますが、子供たちは春の太陽のように明るい笑顔で過ごしています。今月は、やま1組 神谷帆乃香先生と、やま2組 室田結女先生にインタビューご協力いただきました。

幼稚園の先生になって感じたことはありますか？



♡神谷先生
本当にやりがいのある素晴らしい仕事だなと感じます。そして自分自身子どもが大好きだと日々感じています。お子様の発言や笑顔にたくさん癒されています。みんなで頑張ってやり遂げ一緒に喜んだり、日々成長していく姿を見たりすることができるので本当に嬉しいです。

♡室田先生
お子様たちの頑張りや成長を間近で感じられる素敵な職業だな、と改めて感じます。お子様たちから学ぶこともたくさんありますし、元気をもらうこともあります。笑顔がキラキラ輝くお子様たちの姿が大好きです。

休日の過ごし方を教えてください (先生達でお出掛けすることはありますか?)

♡神谷先生
休みの日は、どこかへ出かけることが多いです。お友だちや先生たちと遠出をしたり、買い物をしたりします。出かけ先で写真を撮るのが好きです！あとは、好きなアーティストのライブにも行きます☺

♡室田先生
休日は予定がない日だと、目覚ましをセットせず思う存分寝ます。友だちとご飯に行ったり、ショッピングをしたり、カラオケに行ったり...様々です。先生同士で出掛けることもたまにあります。

お忙しい中インタビューご協力いただきありがとうございました。
担当：やま組 山崎 井上 ベネット 山本